

2020年10月以降のシステム開発プロジェクト進捗報告 及び 2021年度のシステム開発プロジェクトの予定について

2021年9月13日
特許庁PMO

1. 2020年10月以降のプロジェクトの進捗について

2020年10月以降に実施のプロジェクト

- 第29回特許庁情報システムに関する技術検証委員会（2020年10月開催）以降、8のプロジェクトを実施。
2020年10月以降、現在までにサービスを開始したプロジェクト：①、⑥
- プロジェクト①～⑧について、2020年10月以降の進捗状況を次ページ以降に示す。

システム構造の見直し

①特実審査業務システム刷新プロジェクト	サービス開始
②四法公報システム刷新プロジェクト	開発段階
③審判システム刷新プロジェクト	開発段階
④意商（V3）システム刷新プロジェクト	調達段階

優先すべき政策事項のシステム対応

⑤分類・検索キー改正の最適化プロジェクト	開発段階
⑥意匠制度の見直しプロジェクト	サービス開始
⑦書面手続のデジタル化プロジェクト	企画段階
⑧発送手続のデジタル化プロジェクト	企画段階

1. 2020年10月以降のプロジェクトの進捗について

①特実審査業務システム刷新プロジェクト

サービス開始

- 特実審査業務（方式・実体審査）に係るシステムについて、「特許庁アーキテクチャ標準仕様書」に従い、システム構造の簡素化（システム構造の定型化）及び共有データベースの構築（データの集中化）を実現することにより、常に最新の情報取得を可能とし、環境変化に可能な限り迅速・柔軟・低コストに対応できるシステムへの刷新を完了した。

＜2020年10月以降の進捗状況＞

分類付与部分： 結合テスト～総合テストを実施し、システム開発を完了。

2020年1月よりサービス開始し、安定稼働中。

方式・実体審査部分： 総合テストを実施し、システム開発を完了。

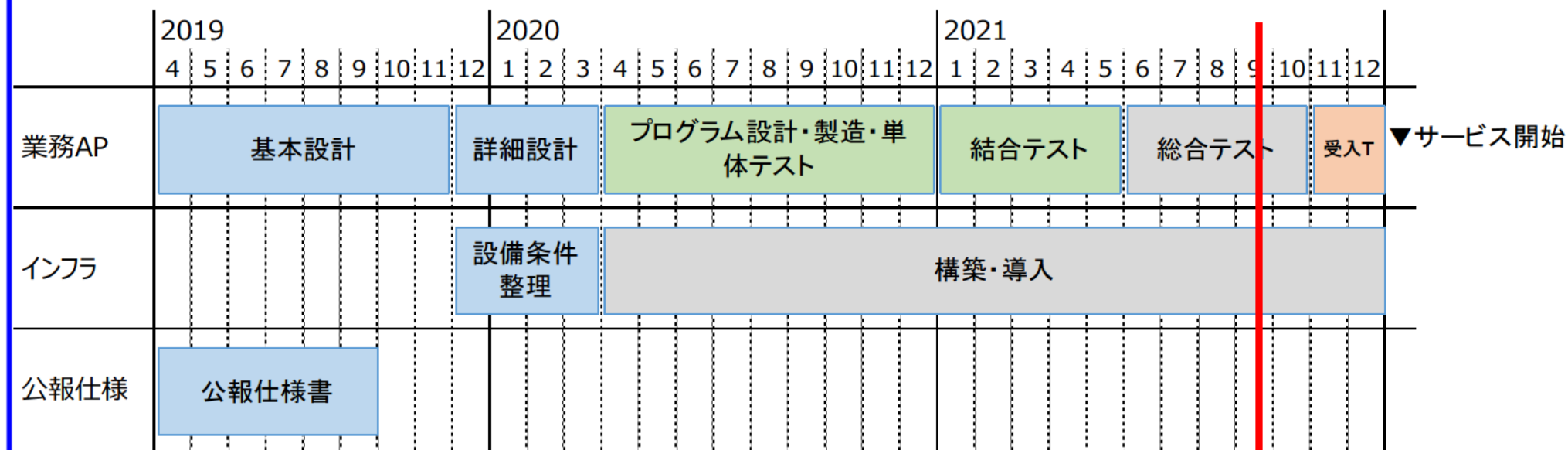
2021年5月、7月よりサービス開始し、安定稼働中。

1. 2020年10月以降のプロジェクトの進捗について

②四法公報システム刷新プロジェクト

開発段階

- 「特許庁アーキテクチャ標準仕様書」に従って公報業務に係るシステムを刷新し、公報発行に要する期間の短縮（例：特許公報の発行に要する期間を「設定登録から原則3週間」から「設定登録から10日以内」に短縮）、公報業務に対するシステム支援の充実、システム構造の簡素化等を実現する。



<2020年10月以降の進捗状況>

業務AP： プログラム設計・製造・単体テスト～結合テストを完了し、総合テストを実施中。

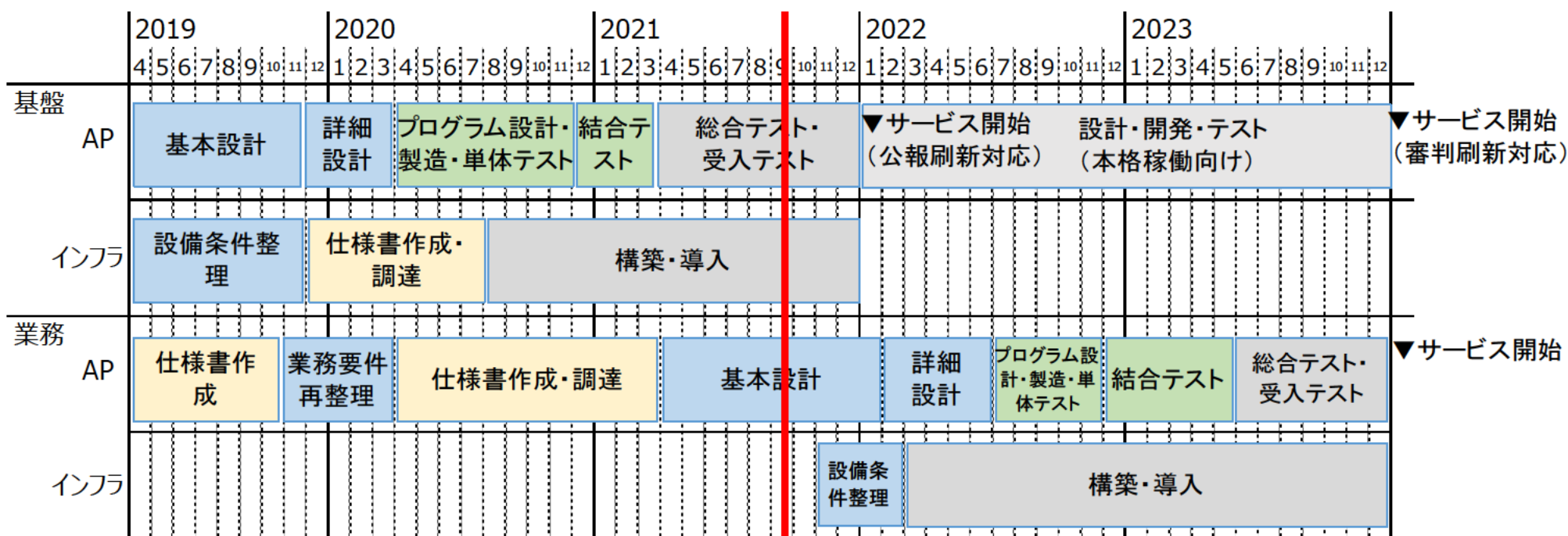
インフラ： 導入工程（セキュリティ検査）を実施中。

1. 2020年10月以降のプロジェクトの進捗について

③ 審判システム刷新プロジェクト

開発段階

- 審判業務に係るシステムについて、「特許庁アーキテクチャ標準仕様書」に従ったシステム構造の簡素化を実現するため、業務アプリケーションの刷新及び審判基盤（DB部分）の構築を行う。
- 特実審査業務システム刷新プロジェクトの成果物及び知見の活用を図る。



<2020年10月以降の進捗状況>

基盤： プログラム製造・単体テスト～結合テストを完了し、総合テストを実施中。
構築作業を実施中。

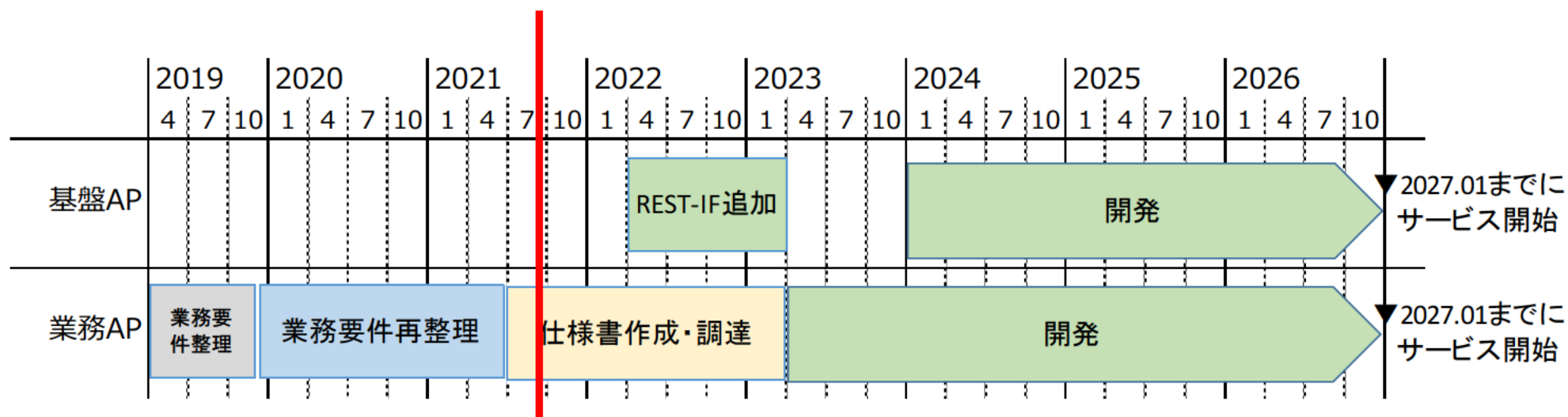
業務： 設計・開発業者の調達を完了し、基本設計を実施中。

1. 2020年10月以降のプロジェクトの進捗について

④ 意商（V3）システム刷新プロジェクト

調達段階

- データ形式やシステム構造が特異な意匠・商標系システムについて、「特許庁アーキテクチャ標準仕様書」に従ったシステム構造の定型化及びデータの集中化を実現することにより、システムの保守性を向上させる。
- 開発規模を抑制するため、システム化範囲及び業務要件の再精査、特実審査業務システム刷新プロジェクトの成果物及び知見の活用を図る。



<2020年10月以降の進捗状況>

業務： 業務要件再整理を完了し、設計・開発業者の調達手続中。

1. 2020年10月以降のプロジェクトの進捗について

⑤分類・検索キー改正の最適化プロジェクト

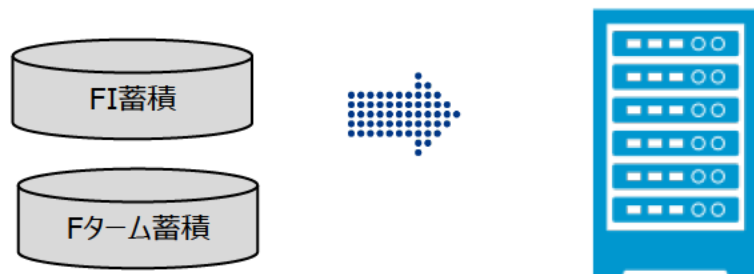
開発段階

- 分類・検索キーに関連する業務全般（分類改正作業や検索キーのメンテナンス業務等を含む）に係る課題の克服や効率的な業務の実施のために、分類・検索キー改正に関するシステムの最適化を図る。
- F I・Fターム同時再分類への対応、Fタームの部分的メンテナンスへの対応、再公表特許廃止への対応等を実施する（下記参照）。

（１）F I・Fターム同時再分類への対応

FIの再分類とFタームの再解析とは、現状、別々のシステムで管理されているため、両者を同時に請負業者へ発注することができない。

そこで、FIとFタームの再分類管理システムを統合することにより、FI・Fターム同時再分類を可能とする。



（２）Fタームの部分的メンテナンスへの対応

現行システムはFタームの部分的メンテナンスに対応していないため、審査官による再解析（内製）に頼らざるを得ず、職員の業務負荷が発生する。

そこで、テーマ内の全文献ではなく、論理式により特定した文献群を請負業者に発注できるようにシステム対応する。

（３）再公表特許廃止への対応

公報システムの刷新に伴い、法律に定めのない再公表特許が廃止されると、国際特許出願（PCT出願）の国内移行出願（DO出願）の公開イメージが欠落し、再分類が不可能になる。そこで、システム上は国際公開をDO出願の公開イメージとすることにより、再公表特許廃止後も再分類可能とする。

＜2020年10月以降の進捗状況＞

（１）～（３）： 詳細設計～結合テストを実施し、総合テストを実施中。2022年1月サービス開始予定。

1. 2020年10月以降のプロジェクトの進捗について

⑥意匠制度の見直しプロジェクト

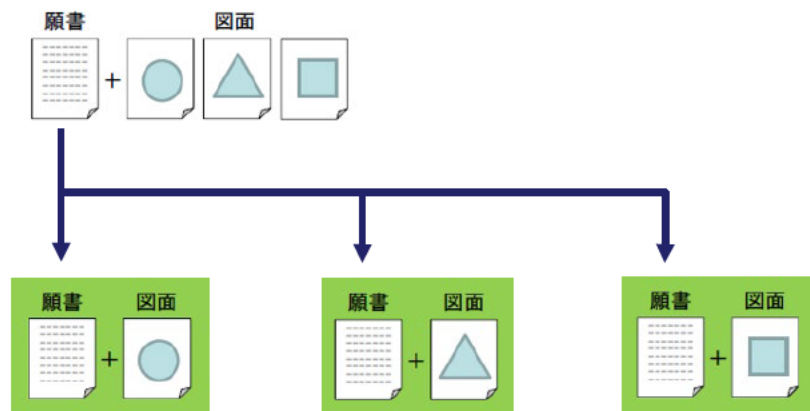
サービス開始

- 2019年5月に公布された改正意匠法等を運用するにあたり、法律等に則った事務処理や審査処理を行えるよう、庁内システムを改修した。
- 2020年度は、（１）複数意匠一括出願の導入、（２）物品区分表の見直し、（３）手続の救済規定の拡充についてのシステム対応を行った（下記参照）。

（１）複数意匠一括出願の導入

複数の意匠についての意匠登録出願を一の願書で行うことができるようにするとともに、実体審査や意匠登録は現行制度と同じく意匠ごとに行う。

複数意匠一括出願



（２）物品区分表の見直し

省令で物品区分表を規定することをやめることとし、出願時に物品の区分を記載する際の参考となるよう、物品区分表に類するものを告示等で整備する。

（３）手続の救済規定の拡充

指定期間経過後の延長手続を可能とすると共に、優先権主張を伴う出願についても、優先期間徒過後の優先権主張を可能とする。

<2020年10月以降の進捗状況>

- （１）～（３）： プログラム設計～総合テストを実施し、システム開発を完了。
2021年4月よりサービス開始し、安定稼働中。

1. 2020年10月以降のプロジェクトの進捗について

⑦書面手続のデジタル化プロジェクト

企画段階

- 特許庁では、年間総申請件数約310万件のうち約290万件（約9割）は現在電子的に申請可能となっている。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止・予防のための新しい生活様式への移行、急速に発展するデジタル社会への対応、及び、行政手続の更なる利便性向上を目的に、現在電子申請できない全ての手続（年間約20万）のデジタル化を決定した。

<特許庁における手続のデジタル化推進計画>

https://www.jpo.go.jp/system/laws/sesaku/document/tetsuzuki_digitalize/keikaku.pdf

<今後のスケジュール（想定）>

2021年度内にシステム化要件を確定させ、2022年度～2023年度に設計から開発を行い、2024年3月までのサービス開始を目指す。

1. 2020年10月以降のプロジェクトの進捗について

⑧ 発送手続のデジタル化プロジェクト

企画段階

- 新型コロナウイルス感染拡大防止・予防のための新しい生活様式への移行、急速に発展するデジタル社会への対応、及び、行政手続の更なる利便性向上の観点から、申請手続と同様、発送手続についても電子発送を可能とすべく、検討を進めている。
- 年間の総発送件数約395万件（約1000種類）のうち、約280万件（約800種類）については書面のみによる発送となっているが、このうち年間件数が多く、かつユーザーニーズの高い手続を優先的に検討し、書面手続のデジタル化プロジェクトと連携しつつ早期に開発を行う。

<今後のスケジュール（想定）>

2022年度上半期までにシステム化要件を確定させ、2022年度下半期～2023年度に設計から開発を行い、2024年3月までのサービス開始を目指す。

2. 現在実施中のプロジェクトについて

現在実施中のプロジェクト

- 現在は、6つのプロジェクトを実施中。今年度中にさらに2つのプロジェクト（①、④）がサービス開始予定。

システム構造の見直し

①四法公報システム刷新プロジェクト	サービス開始予定
②審判システム刷新プロジェクト	開発段階
③意商（V3）システム刷新プロジェクト	調達段階

優先すべき政策事項のシステム対応

④分類・検索キー改正の最適化プロジェクト	サービス開始予定
⑤書面手続のデジタル化プロジェクト	企画段階
⑥発送手続のデジタル化プロジェクト	企画段階

ありがとうございました

